

畫科受験者は全國に於ける總員は不明に候
へ共東京府廳を経て受けたるものは最初十九名ありこの内豫備試験に合格せしもの四名有之更に今回の本試験に全然最後の勝利を克ち得しものは僅々二名に減じ申候以て全國一般の景氣を察知するに足るものありと存じ候

左に今後受験せんとする諸君の爲めに聊か御注意申上候

△中學師範卒業及小學正教育の資格なきものは明年(四十一年)限り受験の資格を失ひ申候、依てこの資格なき人は御奮發の上明年中に合格可然若し然らざれば終に永遠に好機を逸する譯に候

△たとへ前述の中師卒業の資格ある人と雖四十二年度よりは實技試験に鉛筆毛筆合併ならでは受験する不能、斯くては繁雜困難の倍加するは争はれぬ事實に候
△願書差出メ切期日は今年は六月十五日までに候、毎年願書メ切期日に遅れて失策する人あり御用心なさるべく候

△寄留先きにて受験せんとする人は受験地に寄留するを要し候間早く寄留手續をす
るが安全に候

△中學師範等にて相當平面及立體幾何の素養ある人は用器畫の準備としては六ヶ月にて充分と存じ候、其他の人ならば専心八ヶ月位は要し申候

△實技試験は水彩畫研究所にて一ケ年も研究せば大手を振つて合格疑ひなく候

△教授法參考書としては白濱徵氏圖畫教授法と云ふ書物が最も適當と存じ候

△文部省の檢定試験と云ふものは左程難しきものにはあらず、只徒らに文部省の名に振へ上ることなく、試験場を研究所の控所位に考へてウンと大膽に落着きて活動することが受験の最要秘決と存じ候、尙一ツは時間のことに候、何れの科目も

時間は甚だ不足にして、鉛筆や水彩の寫生を二時間づゝにてやらせる如きは隨分無理の骨頂と可申候、この時間を巧みに便用するが緊要に候、決して一分たりとも無駄な時間を消費せぬ様なさるべく候

尙云ふべき多くを余し候へ共「みずゑ」編輯子より御目玉を頂戴致し候に付これにて筆を收め申候尙御尋ねの議も有之候は、小生の知れる凡てを御回答可申其節は返信用切手三錢封入左記の處へ宛て御賜信願上候
静岡縣榛原中學校内 藤田紫舟宛

始めての寫生

T 生

十日間の強請で今日漸く繪道具一通りを買つて貰つて今生れて始めての戶外寫生に出た所だ、然し程よい所がない、どんなに行

つてもないもう十二時といふに、

致方がないから辨當を食つて或る一景に向つて筆を染めた、遠景は七重八重壘みかけた様な山と森で手前に道がある、其先は直ぐ廣い川と石川原で、川向ふには、村落點々といふた様な實に好い景色だ、自分の力ではとても覺束ないといふ事は更に悟らない、

此時一番氣にして居たのは人の來る事で、弟に番をさせて居るけれど尙心配でならず、絶へず後に氣をつけて見られぬ様にとめた。

ワットマン、といふ紙に向つて居るので書き損じてはならぬ、殊に始めてだから誰にでも賞められたいと思つて出来る丈け念を入れたがどうしても手が振るうて畫けないこんな事なるものかと思つて、自分で自分に鞭打つて尙續けたそして此の中にも『みづゑ』は幾度か彼是と操られて少なからぬ注意と、方法を與へる。

幸に人の來ぬのはよいが、寒いのに閉口した、

四時といふ時に完成といふ事になつた、自分で見ても道と川の判別を爲し兼ねるといふ代物がだ其時の愉快だつた事は實に例へ様が無い位